

キャンディとダンブッラを結ぶ幹線路上に発展してきた都市・マータレーは、初めて仏典が作られた寺院の在る街である。スリランカの中部州にあるので何度か車で往来しているはずだが、外国人の私にとってはさしたる特徴も感じることなく通り過ぎてきた。「ここはプランテーションで働くために南インドから19世紀に移ってきた子孫が多いんだよ」と、タランガッレ・ソーマシリ師が土地模様を教えて下さった。初めてスリランカ観光をした1990年、ツアーコースの中に、マータレーのスパイス・ガーデンも組み込まれていた。気候と水と環境が適していたのであろう。農業が主な産業で、一般旅行者を釘付けにするようなセールス・ポイントがないのに、素朴な人々と自然に囲まれた歴史のある街である。

🌸スパイス・ガーデン

スリランカのスパイス(香辛料)は、もともと山岳地域で採取された野生の植物であった。伝統医療アーユルヴェーダが培われてきたのも、コロンボとキャンディをつなぐ鉄道がマータレーまで延びてきたのも、ココアやスパイスを運んだ西欧人のビジネスと無関係ではない。スリランカが他国に翻弄された要因の一つも、スパイスが原因と言われるほど、ヨーロッパ人にとって魅力があったのであろう。それをスリランカ人は「スパイス・ガーデン」として、ビジネスと結びつけた。商業化する条件が揃い、マータレーには15か所もスパイス園が造られた。

2013年1月、それらのスパイス園の一つであるランウェリ園に入ってみた。ここは毎日開園されて、無料で見て廻ることが出来る。アロエ、山椒、胡椒、生姜、シナモンなど私でも分かる薬草が植えられていた。興味津々だったのは、野菜カレー

には、カルダモン、コリアンダー、^{チヨウジ} 丁子、アニシード、クミンシードなどが、カレーのベースとなるスパイスであり、肉類のカレーには玉ねぎ、にんにく、落花生などが加えられるとのことであった。日本語で香菜ことカラピンチャはお料理の飾りや香りの素として使われ、唐辛子ことチリは多様に用いると説明を受けた。

チリの辛さを出すには分量や部位で決まる。日本では乾燥させた唐辛子が多く使われるが、ビタミンCが豊富で消化促進作用がある。適量で風味効果があり身体に効能があるなど…面白いお話であった。もし私がスリランカに住居を構えるならば、スパイス園に足繁く訪れて、観て巡って楽しみたい所である。美容と健康への投資だと考えれば、決して高くない野外学習の場である。

🌸川村幼稚園前で

「ここだよ!! ヤタワラ・パンニャラマ先生の川村幼稚園だよ。園長はお姉さんに任せているらしいけれど」。偶然のことに、ランウェリ・スパイス・ガーデンの道路を隔てた場所に在った。以前から訪問したい幼稚園であったので、やっと願いが叶った。残念ながら、道路の混雑渋滞が続いて開園している時間帯に間に合わなかった。園児は帰



ランウェリスパイスガーデン

(パノラミオから)



川村幼稚園 (蘭華寺のヤタワラ・パンニャラマ氏提供)

り、静かな園庭に遊具がみてとれた。道路側から扉越しに2階建てが見え、土地柄イスラム教、ヒンドゥ教、仏教の宗教に関係なく60人の園児が仲良く通園していると云う。ソーマシリ師は「日本人が出資して下さった幼稚園では、感謝の心を込めて日本名称になっているんだよ。毎日、日本の国歌と童謡が歌われて…云々」と云われる。それだけでも友好親善であり意義がある。ここで舞台を日本に移そう。私の知るパンニャラマ師のことに触れたい。

師は、大菩提会日本拠点である、香取市の蘭華寺に住まれ、ときどき、スリランカの川村幼稚園に足を運ばれている。日本での寺暮らしは、もう20数年になる。日本語も堪能で瞑想道場での指導、手塚治虫画『ブッダ』に学ぶ『もう迷わない生き方』等、仏教関係の書物の監修など多岐にわたっている。私が最も感心したことは、パンニャラマ師の法話である。日本語も的確で師のメッセージが詰まっていた。スリランカマータレーの川村幼稚園参観は、またの機会に譲るとして、パンニャラマ師が、日本とスリランカを往来しながら、根の張った真面目な伝道布教活動に取り組まれていることに敬意を抱く。

アルヴィハーラ

マータレー郊外にアルヴィハーラ寺院が在り、昔はマートウラと呼ばれていた。明るい寺院の意味である。ダンブッラと同じく石窟寺院で創建は

紀元前1世紀で古刹の類^{たくい}である。沢山の仏典が保存されていることでも知られている。その程度のことにはガイドブックでも紹介されているが、スリランカ仏教史の重要なことと詳細な経緯は、全てソーマシリ師を仰がねばならない。当寺史によれば、「大乘仏教」と深い関わりがある。

スリランカの仏教は様々な紆余曲折の末、小乗仏教だけがのこされているが、かつて、小乗仏教僧と大乘仏教僧が教義を巡り壮烈な争いをした時代があった。アルヴィハーラは、かつての大乘仏教僧たちが此の石窟寺院に集い、意見を述べ合う集会所として利用していた場所とのことである。大きな岩をくり抜いて造ったアルヴィハーラは、太陽の当たる設計となっていた。寺院内には寝仏や瞑想仏像、立像が安置されている。ジャータカ物語^(注)の説話がフレスコ画で描かれていて、窮屈そうに感じる。もっと広いスペースがあればと思いつつながら第2窟の地獄絵図と対面した。罪を犯した人間が死後の世界で裁かれているのは圧巻で、子供たちには無言の教育場となる。岩山には図書館があり、教典や仏像が保存されている。

ソーマシリ師によれば、昔、僧侶たちが記録を残すために椰子の葉(パピラ)を蒸し、日干しにしてなめして紙としたとのこと、アルヴィハーラは、その上にお経が最初に文字で書かれた歴史的な場所であるとのことだ。炭、米粉、植物油を用いて文字を書いたとのことだが、それは、現在私たちが使っている紙より丈夫だそうである。図書館には日本から届けられた『般若心経』があり、スリランカの『パーラミッタ』という仏典と同じだと聞かされた。北伝、南伝、あるいは海のシルクロードを経て日本に到った仏様の経典が、アルヴィハーラに収納されている。仏教伝播の妙に感動した。

(注) ジャータカ物語 ブッダが前世に菩薩として修行していたときのエピソードを集めた物語。